

(様式4)
【学校用】

ふるさと教育 取組事例

学校名	川本町立川本小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
4	総合的な学習	発見・発信エゴマパワー	地域の特産物や栽培に携わる地域の方、食育健康活動を行う地域の方々
ねらい	エゴマ栽培を通して、地域の特産物やそれに関わる人々の思いや願いを知り、その良さについて発信する。		
<p>1 取組の概要</p> <p>【1学期】・エゴマの苗植え ・水やり肥料やり ・間引き 6月に一人一鉢と学級園にエゴマの苗を植える。水の調節や肥料の量等、自分で管理することで、責任を持って栽培を行うようにしている。栽培については、三原地域でエゴマ栽培を行っておられるアグリムーンの柴原さん、農と里山 S-oil(ソイル)の野澤さんに指導をしていただいた。</p> <p>【2学期】・エゴマの葉のスムージー作り ・刈り取り、脱穀、エゴマ油搾り ・柴原さんやお世話になった地域の方への感謝祭を開催 栄養満点のエゴマの葉をおいしく食べる方法を柴原さんや健康作り活動を行う地域の方に調理活動を通して教えていただく。また、収穫した実から油を搾る体験を通して、エゴマ油の貴重さを理解するとともに生産者の方の日々の苦労や工夫についても知る。お世話になった柴原さんや野澤さんを感謝祭に招いて感謝の気持ちを伝える。</p> <p>【3学期】・「発見・発信エゴマパワー」の学習についての発信 エゴマ栽培やエゴマ油作りについて、PC(パワーポイント)を使ってまとめ、他学年に発信する。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から) 【付けたい力】○ふるさとへの愛着 身近な食材であるエゴマのパワーを詳しく知ることで、ふるさとの特産品により愛着や誇りを持つようにしたいと考えた。 (学力育成の視点から) 【付けたい力】○主体的に学習に取り組む意欲 ○相手意識をもって表現する力 エゴマは、地域の特産物として給食でもよく使われ、児童にとっては、栄養満点でおいしいものという認識がある。その栽培活動や加工体験を計画的に行うことで、学習の意欲を高め、主体的に学習に取り組めるように考えた。また、エゴマパワー(健康への良さ)について学んだことを、他学年や交流のある石見養護学校の友達に伝える活動を通して、相手意識をもって表現する力を養いたいと考えた。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等) (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から) ・苦みのあるエゴマの葉がスムージーやお茶になると、とても飲みやすくおいしくなることや搾りたてのエゴマ油のおいしさを改めて知り、ふるさとの特産品をより好きになり愛着を持つことができた。 ・エゴマ栽培やエゴマ油を作るまでには、多くの作業工程があり、栽培者の苦労や工夫で川本町の特産品ができていることを知り、ふるさとへの誇りを感じる事ができた。 ・3年生に学習したことを伝えるため、プレゼンを作成する過程では、「分かりやすく」伝えるこ</p>			

*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

(このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)

とをそれぞれが考えながら、写真や文字を取り入れていた。グループで、意見を伝え合いながら、発表資料を作成できた。より分かりやすい資料を作る過程で、児童のPC操作技能も向上し、プレゼン資料作成の意欲も高まっていた。

(学力育成の視点から)

・エゴマや油などが食卓に届くまでにいくつもの工程があることを、栽培や刈り取り、油絞り等、計画的に体験することで意欲的に活動に取り組み理解できた。苗植え後は、柴原さんや野澤さんの指導のもと、植物の生長等で学んだことを思いだしながら、栽培に必要な肥やしや水やりを進んでする児童の姿が見られた。

・エゴマパワーについてPCを活用し、パワーポイントにまとめた。まとめた学習内容を他の学年(今年度は、3年生)に発信した。

※コロナウイルス感染症予防対策により、3年生のみとなった。石見養護学級の友達への発信も、直接交流活動ができなかったため調整ができなかった。

4 課題や今後の展望

ICTの活用が進んでいる。一人1台のPCを使って学んだことを発信できる技能を他教科とも関連させて、どの時間で身に付けさせていくかが課題であると感じる。



*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

(このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)